

## 復興タウンミーティング(志賀会場)

開催日時 令和6年10月12日(土) 13:30~15:30

開催場所 志賀町文化ホール 小ホール

出席者 町民40名

### 議事内容及び要旨

#### 【テーマ】

『人が帰る 元に戻る 町を変える ~次世代と一緒に考える~』

#### 【開会】

#### 【町長挨拶】

稲岡町長が発災以降の町の対応、復興計画策定の経緯等について説明

#### 【復興計画の説明】

村井企画財政課震災復旧復興創生室長が復興計画の概要版に基づき説明

#### 【シンポジウム】

小中学生、高校生、商工会青年部、小中学校PTAの若い世代の皆さんから志賀町復興計画に対する意見を発表してもらい、その後、ご参加の町民の皆さんを交えて、今後の復興に向けたまちづくりについて意見交換を行いました。

コーディネーター 西野 辰哉さん（金沢大学教授、復興計画策定委員会委員長）

(復興計画に対する意見発表の要旨)

志賀小学校6年児童代表 田中奏太さん

3つの意見を発表します。1つ目に、僕は地震の後に家族で避難所へ行こうと車で移動しましたが、道路が割れているところがあって、パニックになりました。避難所に着いてからも何度も大きな余震がありとても不安になりました。このことから、避難所となる施設の耐震や道路などの面で、災害に強く安心できる町にしてほしいです。

2つ目に、長い間断水が続き、近所の方に井戸水を貸してもらうことができましたが、自由に使える水がないことで普段の生活ができず、大変な思いをしました。僕は2日目に家に帰れましたが、帰れなかった人たちもいます。だから、避難所となる施設には、水や食料を備蓄しておく必要があると思います。また、いつでも町民が使うことができる水を貯めておく施設があればいいと思います。

3つ目に、ペットを飼っている人も安心して過ごせる避難所があればいいということです。ペットを飼っていると、匂いや鳴き声など、周りの人に迷惑がかかることもあると思いますが、飼い主さんと避難所にいる人が、お互いが安全・安心に過ごせる避難所を作ればいいと思います。

志賀小学校6年児童代表 藤本由希葉さん

私からは、復興計画の基本理念「かえる、志賀町」の3つのかえるについてです。

まず、「人が帰る」についてです。私は地震の次の日、加賀のおばあちゃんの家避難し、1カ月ほどで志賀町に戻ってきたのですが、戻ってくる最中、道路のひび割れや電柱の傾きなどを見て不安な気持ちになりました。安心して帰られるようにするのなら、応急処置ではなく、完璧に直してほしいです。

次に、「元に戻る」についてです。もうほとんどの地域では、祭りが終わったと思いますが、祭りの再開をしたいと思います。地域の文化とともに、人の笑顔も戻ってほしいです。

最後に、「町を変える」についてです。私は、おばあちゃんの家だったので、断水を経験していませんが、家に残った母は毎日文化ホールや井戸水があるお宅などに行って、水をもらっていたそうです。少しでも断水での負担を減らすため、水道管の強化をしてほしいです。

#### 志賀中学校生徒会会長 石川蓮さん

復興計画における災害時の避難拠点施設の確保で、町民が普段から使えるカフェや飲食店、図書館などが入っている施設と、津波から避難できる避難所を併設した防災タワーを建設してほしいです。それは、町民が普段から使うことで、災害が起きた時でも問題なく避難できることや、防災タワーが町民の憩いや交流の場になることが考えられるからです。

次に、アンケートで住宅に関する問題を抱えている人が多くいたことが分かり、住宅の耐震化の援助を強化してほしいと思います。

#### 志賀中学校生徒会副会長 横田真乙さん

はじめに、道路の整備についてで、震災後、多くの場所が修復されてきましたが、大島の健康ロードや役場の前、トミヨの池付近など、修復されていない所もたくさんあります。町の第一印象は、やはり見た目から、道路を整備することで、復興のアピールになり、町民の安心材料にもなる、私たちにとっては、登下校がより安全になりますので、道路の修復を進めてほしいです。

2つ目は、祭りについて、コロナ前は様々な祭りが開催されていました。祭りは町の活性化につながり、町民の笑顔をつくることができると思います。祭りを再開することは、「人が帰る、元に戻る、町を変える」きっかけになると考えます。

また、私のクラスメイトの意見ですが、廃校を利用して何かの施設を作ってほしいというものがありました。廃校となったほとんどの学校は耐震工事をしており、今だからこそ廃校を活用すべきなのではないかと考えます。さらに、町を変えるためには、今日のような町民の意見を聞く機会をもっと設けるべきだと思います。

#### 志賀高等学校生徒会代表 油谷侑祐さん

復興計画に登載の「復興のシンボルとなる複合型の避難所拠点施設と防災公園の整備」をぜひお願いしたいと思います。その理由は、元日の地震直後、高浜地区の方で、特に町中の方は、小学校が避難所なのですが、なかなか避難しにくかった、できなかったという方が本当に多く、海沿いの方は、昔から住んでいる一人暮らしの高齢者の方が多くおられたということで、避難所ではない志賀高校に避難せざるを得なかったと聞いています。このことから、もしまた災害が発生した際に避難できる拠点施設の設置を検討していただきたいと思っています。

また、単なる防災施設としてではなく、例えば、最近新しくできた「ラクナはくい」では、子ども達が遊べるアトラクションや中高生が学習できるスペースが設置されており、高齢者や地域住民が集える場所として、ドトールコーヒーを入れてみたりとか、志賀町の飲食店にご協力いただいて、そこで交代でランチを販売するようになりと、そういう地域住民が集えるような場所にしていけば、町が推進しているフレイル対策の拠点の一つ

として利用できるのではと考えます。

さらに、今回の震災では町内全域で断水となりましたが、これを教訓に、施設内で特にトイレの水が繰り返し使えるような設備を導入すればどうかと思います。飲み水は物資できたりしたと思いますが、トイレに関しては、どうしても不便だったということで、ソフィール型合併浄化槽を設置するなどした施設にしていきたいと思います。こうした多角的な視点で考えられた施設を設置し、またこれを増やすことができれば、志賀町に赴く人が増え、この3つの「かえる、志賀町」を実現することができることはもちろんのこと、人を生む志賀町へと躍進していくと考えます。

#### 志賀町商工会青年部常任委員 裏貴大さん

1点目は、雇用の確保、継続についてです。これは、震災があるなしに関わらず、事業の継続はもとより、事業規模の拡大に重要なことです。施策2の(2)のリーディングプロジェクト、産業の振興と雇用の創出について、ハローワーク等への雇用に関する対応というのは、ほとんどの企業が既に行っています。つまり、今すぐ雇用がしたい、あるいは事業の関係上、このタイミングで雇用したい等、経営体によって雇用に対する考え方は多様であり、もう一步踏み込み、例えば、経営コンサルタントを導入する費用に対し、行政支援があると、もっと具体化した雇用等に対する考え方が見えてくると考えます。一方で、各経営体の従事者の平均年齢は、ものすごいスピードで高齢化し、人件費は高騰、加えて昨今の物価高騰等は、企業にとって大変大きなダメージを与えています。雇用した人を育てる仕組み化や雇用環境の若返り等も併せて重要だと考えます。

2点目は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、開催が難しかった大きなイベントの再開です。今年度は、来週19日に商工祭が開催されますが、本町には文化芸能に根差した「これでもか！太鼓」等のイベントがあります。これらイベント参加者の満足度を向上させることは重要であります、どこか単発的に開催されていると感じます。他所から参加された方には、そのイベント時に志賀町の魅力を伝えたり、移住を検討しようかなと思えたり、前向きな考えになるような場がこれらのイベントに組み合わせると、楽しかっただけで帰るようなことにはならず、どこか頭の片隅に志賀町というものをお土産として持ち帰っていただけるのではないかと思います。このようなイベントを官民一体となって企画することが、よりよいイベントの開催につながると考えます。

#### 志賀小学校PTA会長 藤勝麻美さん

復興において、最初に考えるべきことは、町の未来を担う子ども達のことです。子ども達が安心して学び、健やかに育つ環境が整っていることこそが町の復興の礎となります。学校や公共施設の安全性の確保をはじめ、日常を取り戻すための家庭への支援、コミュニティのつながりが大切です。発災後の心のケアや家族との絆を再確認する場を設けることが長期的には町の強さにつながると思います。東日本大震災の復興事例を見ても、元に戻るだけでなく、よりよい未来を目指すことも大切だという教訓があり、単に物理的なインフラの再建だけではなく、地域の文化や伝統を大切にしつつ、持続可能な未来を考える取り組みが求められています。例えば、エコな生活を取り入れた学校や公園の設計、地域の食材を生かした地産地消の推進など、子ども達にも環境や地域への関心を高める教育などを提供することが重要です。

町を変えるというテーマについては、特に若い世代の意見が大事です。震災を経験したからこそ、町の弱点を改善し、強いまちづくりに挑むべきだと思います。例えば、若者が地域に戻ってきたくなるような産業や仕事の創出、デジタル化による新たなビジネスの機会など、未来を見据えたまちづくりが必要です。子育て世代にとっては、働きながら育児がしやすい環境や地域全体で子育てをサポートする仕組みを充実させることも、まちの活力を取り戻す鍵となると考えます。「人が帰る、元に戻る、町を変える」というテーマにあるように、復

興は単なる再建ではなく、みんなで新しい未来を作り出す大きなチャンスだと考えます。私たちPTAや母親たちは、子どもたちと未来を共に支えるために、力を合わせ全力で協力していきます。

#### 志賀中学校PTA副会長 坊城仁奈さん

震災とは直接関係ないかもしれませんが、子育てをしていくうえで、仕事を持っているお父さん、お母さんが結構多いこと、あとは、おじいちゃん、おばあちゃんがいる家なら、子どもが熱を出したりしても預けて仕事に行くことができると思いますが、どうしても仕事が休めないという方もいるので、新しい計画では、もちろん防災センターも大事な施設ですが、できれば病院、志賀クリニックみたいところに併設して、病児保育をもらえる施設を作ってほしいです。

また、富来地域の方が地震の影響が大きく、富来中学校に小学生も通っていますが、敷地の駐車場なども全然直っていないですし、道路もこれから冬になって雪が降ってくると、慣れている道であれば、陥没やマンホールが飛び出ている箇所とかは大体分かっているとかもしれませんが、知らない場合や夜になると、運転が危ないので、道路は早めに直してほしいと思います。

#### 西野コーディネーター

一通りご意見を伺いましたが、お話をいただいた順に、追加でご質問させていただきます。

志賀小学校の田中さんから、地震の時の避難所のお話をさせていただきましたけれども、一番困ったことは何でしたか。

#### 志賀小学校6年児童代表 田中奏太さん

一番困ったのは、避難所で寝るときに床が硬くて、マットなどはありましたが、全員分がなかったので困りました。

#### 西野コーディネーター

志賀小学校の藤本さんは、断水に苦労されたということでしたが、実際、復旧したのはいつだったんですか。

#### 志賀小学校6年児童代表 藤本由希葉さん

お母さんがものすごく断水に困っていました。復旧したのは、私が家に帰って、ちよつとしてからだったと思います。

#### 西野コーディネーター

志賀中学校の石川さんからは、災害時の拠点施設が普段から使え、カフェとか入れてほしいというお話がありました。他に何かあったらいいなと思うものはありますか。

#### 志賀中学校生徒会会長 石川蓮さん

みんなが話し合える場所、休憩できるような場所があったらいいと思います。

#### 西野コーディネーター

志賀中学校の横田さんからは、お祭りのお話がありましたが、どんなお祭りですか。

#### 志賀中学校生徒会副会長 横田真乙さん

私にとって、本当にお祭りといえばやっちゃ祭りって感じで、屋台とかもいっぱいあって、クライマックスにでっかい花火があり、本当に大好きでした。

#### 西野コーディネーター

志賀高校の油谷さんは、避難施設のお話で「ラクナはくい」の話をされましたが、どういところがいいと思いますか。

#### 志賀高等学校生徒会代表 油谷侑祐さん

「ラクナはくい」に行ってみて思ったのは、ただ勉強ができるところがあるとか、人が集まるだけじゃなく、今日のような集まりをするときも場所を貸し出していたり、結構な時間勉強している方もいたりするんですが、そこにドールコーヒーがあり、休憩しながら勉強することができます。また、ゲーミングルームもあり、その大会ができることも聞きましたし、子どものアトラクションができる場所もあり、施設の中で活動したり、人と触れ合ったりするところを作ること、子ども達の体の成長にもいいかなと思います。

また、今回の震災で一番大変だったのはお手洗いだったと思います。合併浄化槽については、ソフィール型というのがあるんですけども、その合併浄化槽だと下水を流しても、それを再利用して、ずっと下水として循環して使えるという、上水、下水だったら中水にあたるので飲めたりはしないのですが、そういう設備を設置した施設になったらいいかなと思います。

さらに、志賀町ですと原発の課題とかもあると思うので、原発のことを学べるようなコーナーとかをその建物の中に設置すれば、町民ももっと原発のことがわかると思います。

#### 西野コーディネーター

志賀町商工会青年部の裏さんからは、事業承継はなかなか大変で、どんどん高齢化していくという話もありましたが、若い人が移住してきたりする中で、うまく新しい事業を始める、古い事業を承継していくときに、こういうことが大事だと考えられますか。

#### 志賀町商工会青年部常任委員 裏貴大さん

事業承継に関しては、その企業が受け継ぐ方にとって魅力的な企業であるかどうか、新たに事業を立ち上げられる方にとっては、この地域が自分の掲げる目標や目的に合った場所であるのか、つまり地域が魅力的であるのかというのが非常に重要になってくると思います。例えば、運送業をする方であれば、志賀町にはインターが2つもあるということもありますし、里山海道を無料で走れるということもありますから、比較的考えられるのではないかなと思います。

また、特に思うのは、志賀町は中核工業団地ありきのところが非常に多いと思います。雇用をたくさん生んでくれる場所なので、大変重要な場所ではありますが、われわれ商工会青年部、あるいは商工会に所属している地元企業というのも非常に重要であると。特に事業承継に関しては、これから大きな課題になってくると思いますので、商工会のような経営者の方々と話をして、町独自の別のものを考えていただきたいと思います。

#### 西野コーディネーター

志賀小学校PTAの藤勝さんからは、学校施設のハード面の整備だけではなく、家庭への支援やコミュニテ

イとかが大事だといったお話がありました。それはPTAとかコミュニティが主体となってやるのか、何か町に協力をお願いしたいということなのですか。

#### 志賀小学校PTA会長 藤勝麻美さん

できれば、町主体でそういったものを提案していただければ、参加しやすいと思います。仕事もしていたり、育児もあつたりするので、そうしていただくと助かります。

#### 西野コーディネーター

志賀中学校PTAの坊城さん、中学校の親御さんからどうでしょうか。少し年齢が高くなると、状況も変わるかと思いますが。

#### 志賀中学校PTA副会長 坊城仁奈さん

私の地域では、以前、部活動が終わった後のバスがなくて、迎えに行ったりしていましたが、中学校も働き方改革とかもあり、少し時間を早めたり、短縮したりしたら、帰れるようになりました。多分、しかバスを変えていくと、AIを使ってということになって、少しずつ効率がよくなると思いますが、利用者にとってそんなに不便じゃないというやり方があって、スクールバスも多分変わっていくと聞いているので、その辺は取りこぼしがないように、効率よくしてほしいと思います。

#### 西野コーディネーター

ここまでのことに関して、町の方から何かご返答ございますか。

#### 稲岡町長

ご意見ありがとうございました。災害に強い道路や施設に関しては、復興計画にも掲載しておりますが、本町には原子力発電所があり、万が一、原子力災害があった場合の避難経路は、志賀町だけで考えるものではなく、石川県や近隣自治体、そして国とともに広域的な計画を立てなければならず、今、国や県に対し、そういったルート、道路の強靱化・多重化・複合化を訴えているところです。

道を強くすることは大変難しいことですが、道路を広く作ることによって、一部が崩れても通れるようにするなどして、強くしていきたいと考えています。また、施設の耐震化等については、新しく建てる公共施設は、揺れを受けないよう、免震構造にするなどし、地震に強いものを計画しています。さらに、水道管等、今回、断水で管が損壊しましたが、今後更新していく中で、より地震に強いものに変えていく予定です。

防災タワーについては、今後建てる施設の標高が低い場合には、検討していきたいとは思っています。また、避難拠点施設の中にカフェや図書館等も、もちろん検討していきたいと思っておりますし、フレイル予防や原子力発電所に関する啓発等もできる多目的に使えるようなものも考えていきます。

病児保育等については、すばる幼稚園の方で一部対応していますが、さらに拡充するよう働きかけしていきたいと思っております。道路の修繕については、県道、町道ともに冬が来る前に何とかしなければならぬと考えていますが、どこまでできるか分からず、除雪対策等もしていきたいと考えております。

#### 西野コーディネーター

これからは今日お越しいただいた皆様方のご意見を伺っていききたいと思います。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

#### 参加者A

組織としてのあり方ということで、町議会議員さんの役割は、こういう大規模災害が発生した時にどういことをされているのか、全く見えません。町議会の誰がどういう担当で、この現状を変えようとされているか、議員さんの中で決まっているのですか。

#### 福田議長

こうした甚大な被害が発生した時は、役場側で災害対策本部が立ち上がります。その時、議会では、同時に、災害対策を側面から支えていくという形で災害対策支援室を立ち上げます。しかし、結果として、支援室を立ち上げても、今回あまり機能しなかったというのが本音だと思います。

そこで、今後、議会の方も災害対策本部に入るべきだというふうに、執行部に投げ掛けています。皆さんと同じ、町のタウンメールのレベルでの情報しかもらえなかったからです。ですから、そういうふうに見直していくとともに、災害が起こったら実際どういうふうに動いていけばよいのかを規定したBCPを作っていこうと思っております。

#### 参加者B

私は、以前、ある温泉旅館グループで、耐震改修促進法に関しての耐震診断設計について関わっており、全国の県庁や役場と関わったのですが、和歌山県が最初から診断に進むと、助成と引き換えに、各旅館は、その規模に応じ、布団はこれだけ、食料品はこれだけ備えなさいといった内容の避難所協定を結ぶことになっていました。今後、三重県や愛媛県でも実施すると聞いたのですが、大規模地震が起きた時に、役所だけでは到底対応できず、最初から民間企業を巻き込むという考え方もあるのではないかと考えます。

#### 稲岡町長

実際、災害協定については、何社かの民間企業と結んでいます。今回の場合、全町的、広域的に被害があつて支援いただけなかったということもあり、広域的な災害の時には、県のレベルでの災害協定が必要になってくるのかなと思いますので、県にも働きかけしていきたいと思つています。

#### 参加者C

中学生の方が言われたように、もっと町民の意見を聞く場をもつてほしいと思つています。珠洲とか輪島は、市長が直接住民の方に出向き意見を聞いておられます。志賀町もあるのかなと思つたら全然なく、今回計画が出てからの話なので、計画を作る前に話し合つていけばもっと具体的な計画ができたのではと思つています。

また、志賀町の復興を支えるのは、PTAの方がおっしゃられたように、子どものいる若い世代だと思います。田舎暮らしの移住者ランキングでも、子育てをメインに掲げているところは、やはり移住者が増えていまず。18歳までの医療費や学校教材費の無料化、自治体独自の児童手当を出しているところもあり、志賀町も子育てを大事にする町だということ、全面的にアピールしていけばどうかと思つています。

そして、町議会において、大学授業料無料化の意見採択書を議員さんが出されましたが、否決されました。別に予算もかからないし、国に出す意見書なので、どうして学費無料化の意見を採択されなかったのか、すごく疑問に思つています。親としては、大学の授業料が無料化になれば、やはり子育てしやすいし、大学にも行つておいでよとも言ひやすいと思つています。

## 稲岡町長

皆さんの意見を聞く場を設けてほしいというご意見は、これまでに何度もいただいており、私も町長になったのが昨年末ですが、その時の公約の一部に皆さんとの対話の場を設けるということを訴えて当選したわけでありました。しかしながら、今回、未曾有の大震災となり、職員の数、マンパワーが圧倒的に足りない状態が9カ月経った今も続いており、私一人で何でもできれば、もちろん可能なのですが、そういうわけにもいかず、やはり職員に手伝ってもらわないとできない状況です。そこで、今回、せめて校下単位の16地区を回りたいと考え、検討したのですが、なかなかその時間が取れないため、苦肉の策と言っていいのか、どなたが来られてもいいように、オープンミーティングという形で初めて開催させていただきました。

今後は、その事業ごとに、例えばこの地区でやる事業の時には、その地区に出向いて、その関係者の皆様方から意見をいただきながら事業を進めていくという手法をとっていきたいと思っております。

子育て支援については、可能な限り、私としても、子育て支援、子育てに強い町ということを進めていきたいと考えており、参考にさせていただきたいと思っております。

また、意見書の件については、議会の方で回答いただきたいと思います。

## 福田議長

大学授業料の無償化の件は、手元に意見書がないので内容の精査はできませんが、議員もいろんな考えをもって住民の代表としている立場ですので、やはり、現実的な意見書については、採択することは多いのですが、現実的に難しいのではないかとこの案件に関しては、いたずらに賛成することはない傾向にあるのかなと思います。今後、いろいろな意見書が出てくると思いますが、これは議員個々の判断の下で採択するものであり、ご理解いただきたいと思います。

## 参加者D

志賀町では、スケボー場を整備することを、町長さんが復興を優先するためにその予算を今使うべきではなく、今は復興のために休止するという判断をされた、このことには、私も賛成です。皆さんもご存じのとおり、スケボー場整備の計画は出来上がっています。議会でもんでもんで、議員の方も苦しんで作った素晴らしい計画があるんです。復興計画にある複合型の避難拠点施設に入れるという考え方もあると思います。今の若い子ども達がスケートボードに興味があるならば、わが町にも、計画ができているものを中止するのではなく、整備すればどうかと思います。この件に関し、コーディネーターの先生と子ども達はどう思っているのかお聞きしたいです。

## 西野コーディネーター

スケボー場の話は、道の駅、とぎ海街道周辺の再整備において、少し検討を始めつつあるところですので、その中でご意見を賜りながら、検討が進められるものと思っております。スケボーは、オリンピックもありましたし、現代的だとは思いますが、ただ、それを中止するというのは町長の公約ですよ。

## 志賀高等学校生徒会代表 油谷侑祐さん

計画があるのに何で計画を実行しないんだということは、原発があるのに何で動かさないんだということと同じで、志賀町の中に山積していると思います。だから、その中のどれに今目を向けていくのかということが、すごく重要だと思います。今、多様性の時代ということで、昔と違って、“みんながしているからみんなもやりましょう”ではなく、今は一人一人がやりたいと思うことに目を向けていくというのが今のスタンスだと思います。



町長さんは今スケボーを中止するとおっしゃっていますが、もしかしたら今後、町の予算も増えて、また違う計画で進んでいくかもしれない中で、私個人の意見としては、スケボー場があること自体は非常に賛成です。ただ、全員がこの多様性の時代の中でスケボーがあるからみんなそういう風になるかと言ったら、そうではないのかなと思うので、そこは、もう期待していくしかないと思います。

#### 参加者E

志賀町は、昔から思っていたんですけど、情報発信がすごく弱い。ブランディング、情報発信力、特色を出す方法がすごく弱いので、「クロスローカル」みたいにちょっと特色のあるマッチングサイト、そういったものを求人マッチングサイトというものを作っていただければ、地元経済が発展するのかなと思っています。

#### 参加者F

12ページに関連して、何事にもよらず、国の施策を検討なしで県から町へ下ろしていくことについて、私は大いに疑問があります。その1つは、施策4の2、魅力的な学びの環境の整備、このことは大変素晴らしいと思います。教育プログラムに関しては、デジタル化、DX化を国が進めている中で、五感を豊かに伸ばすことを大前提にすべきだと考えます。例えば小学校、小さな理科室の実験でも、デジタルで動画を見て効率よく進めるような次元は絶対だめだと思う。やはり、疑問、不思議、探究、調査、仮説、それから判断、実行する意欲、これをどうやって育成していくのか、動画では絶対に育成できません。また、もう1つ必要なのは、コミュニケーション能力です。教育の問題について、やはり、検討なしに県から下りてくるような、それこそ、教育課程の編成に走らないように、五感を大事にすること、コミュニケーション能力の育成ということを大前提に考えてほしいと思います。

#### 間嶋教育長

やはり読書と同じような傾向でございまして、子ども達が本を読むときに文字を読むことの大切さとデジタルのよさがございます。今後、ICT化を進めていきますが、五感を育てる教育というのは、やっぱり教育の基本であり、町では教育モデルというものを作っておりますので、21世紀を生きる子ども達の能力の面と、ふるさと教育や五感を育てる教育、そういう面を大事にしながら進めていきたいと考えております。

#### 参加者G

今回の地震は1月1日、家族が全員揃っている、電気はこない、水道もこない、携帯は使えない、この問題で騒いでいますが、これ平日だったら子どもは学校行って、親は会社へ行って、家族バラバラです。連絡を取ること、道がこういう状態で家に帰ることもできないと思います。自分で調べたのですが、NTTの光、北陸三県できていないのは、志賀町と中能登町だけです。なぜ志賀町がNTT入ってないのか。

それと、公共施設にフリーWi-Fiをいっぱい付けて、今みんな携帯持っていますから、家族と連絡が取れるような仕組みも今後は必要だと思いますので、検討をお願いします。

#### 稲岡町長

NTTの件ですけど、原子力発電所の立地地域であるがゆえに、志賀町は他の地域より早くケーブルテレビの光回線が全戸に設置できたということが、まず理由の一つかなと思います。これがあるがために、民間企業として入る余地がなかったというふうに伺っております。

あと、フリーWi-Fiについては、バスターミナルや公共施設に順次設置していく計画であり、実際、もう設置し

てある施設もあります。

#### 参加者H

公費解体が始まり、集落が歯抜け状態にだんだんできています。志賀地域でも堀松とか、私の福野区も歯抜け状態になって、「人が帰る 元に戻る 町を変える」とありますが、長い間ありがとうございましたと、もう帰れないという方も非常に多いです。それは、これから潰した家を新たに作るということは、若い子どもがいたらそういう気持ちにもなるかもしれませんが、できた頃には、あと何年住めるか分からない。そういう高齢化の問題です。町として、どうやって人を帰すのかを考えておられるのかと思います。

また、今、高齢化で、大きな産業の一つの稲作をしておられる人がほとんどいなくなる。個人や農業法人に作ってもらっているんですが、農業法人の平均年齢も75歳くらいになって、あと何年できるのかという状況です。耕作を受ける組織が、今、志賀町にあるのかを聞きたいです。農業は利益は出るが、人がいないからできないという状況を作らない対策を真剣に考えてもらいたいと思います。

#### 稲岡町長

大変難しい問題かなと、どちらも思っています。能登地域全体、もともと震災の前から人口流出が問題になっていたところが、おそらく今回の地震で20年は進むのではないかといった試算もあるぐらいで、言われたとおり、歯抜けの地域が増えてきております。もう一度、それらを新たな土地区画なり、まちづくりしてはどうだという意見もいただいています。いかんせん、民地ばかりでありまして、そこは皆様方が、地域の合意形成を得たうえで、これらを一団の土地にするから何かしてほしいといったお話があれば、ある程度対応できるかなと思っています。いずれにせよ、歯抜けになった場所は、おそらく地盤も軟弱であったり、もう一度家を建てるのに適しているのかということも問題になってくるかなと思っています。

そして、もし帰るといふことになりましたと、もちろん、復興計画にあるとおり、災害に強いまちづくりということで、宅地の強靱化であったり、建物の耐震化であったり、そういったことの整備、住宅の耐震化に関しては、本町は県内で一番手厚く補助することになっています。宅地の強靱化については、県からの事業、最大1200万の事業に対しての補助があるんですが、そういったことで、安心・安全な宅地というものをお示したうえで、今ほどいろいろとお話がありましたとおり、地域の祭りや地域の愛着を呼び起こすようなものなどを発信し、一度離れた方々を呼び戻すようなことを、町としていろいろと実施していきたいと思っています。

農業に関しては、志賀町商工会青年部代表の裏さんがスペシャリストですので、何かいいご意見がありましたらお願いします。

#### 志賀町商工会青年部常任委員 裏貴大さん

農地の継承だと思いますが、まず大前提として、その農地は誰のものですかということです。そこを行政に投げるのではなく、自分の農地をしっかり自分で守っていく術を考えていくことが大事だと思います。もちろん、行政の方にアドバイスをいただくのも当然のことだと思います。ただ、行政が何かしてくれるということはないと思います。先日、輪島とかで洪水があったときに、国や県がこの農地をどうしてくれるんだということを示してくれないから、農業ができない。やはり、私も農業をしていますが、こうやって震災で影響を受けましたとか、農地を継承していくとかになりますけども、まず自助の精神がないと、これは立ち上がっていかないと思います。なので、地域の中でよく話し合ったうえで、地域の周りに、福野以外にそういったところがないのか、自ら探ることが第一かと思っています。困っていることは重々承知です。これは日本全国どこでも課題だと思いますけれども、僕からしたら福野地域、とっても魅力的な地域ですよ。ちょっと遠いんですけど、今、法人さんがい

らっしゃるのであれば、その方々にまだ頑張っていたきたいです。

西野コーディネーター

せっかくの機会ですので、一人でもこの方のご意見をお伺いしたいと思いから、かなり時間が超過してしまい、大変恐縮でございますが、シンポジウムの方、これにて、私の方のパートをお開きにさせていただきたいと思えます。誠にありがとうございました。

司会

西野先生、御登壇の皆様、ありがとうございました。皆さんに盛大な拍手をお願いします。

それでは、本日石田県議員にもご出席いただいておりますので、県政上のご報告がありましたら、お願いいたします。

石田県議会議員

県政における令和6年能登半島地震対応について状況報告

司会

それでは以上をもちまして、復興タウンミーティングを終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。